



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターワンプレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

主な内容

- 救急での応召義務違反 (2面)
- 事故調8月は病院のみ39件 (3面)
- 高齢者大学で健康講座開催中! (4面)

ご用命はアミスまで
◆医師賠償責任保険
◆休業補償制度
(所得補償、傷害疾病保険)
◆針刺し事故等
補償プラン
◆自動車保険・火災保険
☎075-212-0303

審査のあり方の抜本改革に着手

ICT管理・全国統一で医療費抑制狙う

厚労省

「ICTを最大限活用して、審査支払機関の業務をゼロベースで見直し、審査業務を効率化するとともに、審査基準の統一を図る」。規制改革会議の提案を受け、厚労省がレセプト審査の抜本的改革に着手した。すでに有識者検討会を4回開催、現在は非公開のワーキンググループ(WG)が検討中。年末をめどに報告書をまとめる予定だ。小泉構造改革以降、審査のあり方を変えるための揺さぶりがつど実施されてきたが、今回の検討は韓国の審査制度にならぬ根本的な改革を促すものだ。その狙いは都道府県ごとの医療費の「適正化」にある。

規制改革会議から改革要望

今年2月29日、規制改革会議健康・医療WGは「診療報酬の審査の効率化と統一性の確保について(論点整理)」をまとめ、厚労省に対して、2020年の支払基金の審査システムの刷新に間に合うよう検討組織の設置を要請していた。

「論点整理」は、改革の基本的方向性として「審査のあり方をゼロベースで見直す」ことを打ち出し、8

点(現在は9点)の具体的な検討項目を示した。このうち、重要なのは以下の5点である。

医師の関与の下で全国統一的かつ明確な判断基準を策定する。判断基準に基づく高精度のコンピュータチェックを行い、医学的判断を要する審査対象を明確化する。医師による審査における医学的判断を集約し、継続的にコン

照や過去事例の検索や人工知能の活用などにより、医学的判断を要する審査手続きを効率化、高度化する。社保・国保のレセプト情報共有化および点検条件の統一化を図る。

つまり、告示・通知・疑義解釈、薬剤の効能効果・用法・禁忌などにとどまらず、審査委員(医師)の医学的判断による審査も全国統一的な審査基準としてチェックシステム化して審

主張

保団連の保険医年金は、国民年金以外に老後保障のなかった1968年に京都の会員からの声に応じて創設された。開業医の場合、厚生年金の加入期間も短い場合が多く、支給額を期待できないこと、加入期間で支給額の決められる国民年金も生活の足しになる程度であり、老後も健康なまがかり開業を続ける場合が多いのが現実である。しかしながら、病氣や加齢による体力や身体機能の衰え、最近では震災などの自然災害で廃業を余儀

なくされる場合も考えておかななくてはならない。老後を考えた場合、充実した保障が必要であり、「安定」「安心」のある制度として保険医年金制度がある。加入しており、万一場

る。運用面は複数の保険会社による拠出型企業年金保険で安定性に優れている。「月払(1口1万円)で30口まで」の2種類用意され、ライフプラン設計により選択が可能である。

最後に「受取の方法」には2種類が用意されている。「一時金」は、少しまとまったお金が必要な時に口数単位で解約が可能である。「年金」は年金受給時に受給方法を10年確定定期・15年確定定期・15年確定増・20年確定増から選択でき、年金受給開始時の予定利率で年金額が確定され、受給開始後に保険会社の配当があればさらに上乗せされる。積立金予定利率は、毎年度末に決定さ

「安定」と「自在性」の保険医年金

積極的な活用を

保険医年金は、現在全国で5万4千人が加入し、積立金総額も1兆1千億円を超えている。日本有数の私年金で、長きにわたり安定して運用されてきた実績がある。積立て方式は、

次「自在性」があり、一時中断が可能で、他に出生費が重なる場合(教育資金・医院の改築時期など)に、全部や一部の払い込みを中断でき、中途脱退も再

れ、現時点は1・259%で他の資金運用商品に比べても高水準を維持しており、2015年度は配当も含め1・469%となった。そして何よりも強調したいのは「保険医年金の信頼の証」として、これまで受給額が削減されたことは一度もないという揺るぎない実績だ。万一年の場合、ご遺族が全額を遺族一時金または年金として受け取れる。今年の春普及でも多くの新規加入や増口の申し込みをいただいた。現在は秋普及期間中であり、ライフプラン設計に是非とも活用をお考えいただきたい。(香鉄)

伏見 補選結果の報告

伏見医師会選出の代議員・予備代議員欠員に伴った。任期は2017年4月30日まで。

代議員：松本 恒司
予備代議員：辻 光

医界

プロ野球セントラルリーグで、広島東洋カープが25年ぶりの優勝を遂げた。赤ヘル軍団が登場した頃からの地味なファンとして、TVのスポーツニュースや翌朝の新聞記事を見ながら、熱くなる胸と滴り落ちる鼻水は、久しく忘れていた感覚であった。地方の、資金面で脆弱な球団においては、球歴が華々しくなくとも素質のある原石を見つけ、人回させた後には猛練習で鍛え、磨き上げる以外に栄光を掴む手段はなかった。そうして育てた中心選手が、潤沢な資金を武器とするGやTといった人気球団に、フリーエージェントとして移っていくのは、ある意味必然といえ、ファンとして悔しく悲しい。自らが身を置く医療界でも、似たような思いが生み出されようとしている。新専門医制度である。